

質問 5-4 ダム建設は長期間を要するため、ダムが完成するまで治水効果が発揮されないと思うのですが、堤防強化や流域治水が現実的な対応ではないでしょうか。

(回答)

- 大戸川ダムについては、平成元年の建設工事開始から着々と整備を進めており、これまでに水没家屋の移転、工事用道路や付替県道の整備などを進めてきたところです。
- 一般的にダムに限らず遊水地、放水路、河道の拡幅など、川の中で洪水を安全に流す対策には時間がかかりますが、整備しやすいところを整備するのではなく、下流から順に整備をするという治水の原則をふまえ、過去の被災、現在の安全度、背後地の状況等を考慮して優先順位の高い箇所から順に整備を進める必要があります。
- また、必要な堤防強化についても、安全度を満たしていない区間について、全て対策を完了するには、長期間を要しますが、特に安全度が低く、かつ、堤防の被災履歴のあるところ等から順次進めています。
- 流域治水については、流域全体のシステムとしての洪水被害の軽減を図る施策として地域の特性に応じて取り組んでいくべきですが、水を川になるべく入れないよう「とどめる」、川を安全に「ながす」、川に流せない分を「ためる」などを組み合わせて取り組むこととなります。堤防強化をして水を川からあふれさせるという考え方ではなく、水を川になるべく入れないよう「とどめる」考え方が重要となります。

※本質問は、平成20年8月25日に開催された滋賀県議会「琵琶湖淀川水系問題対策特別委員会」において、滋賀県から寄せられた質問に対して近畿地方整備局から回答した内容を中心に整理したものです。なお、現在は時点更新も含め内容を精査しており、最新の情報ではない場合があります。